チャレンジャーカスタムの雄「ラグジ」が、カーイベントではキャンギャルとして引っ張りだこの立花未来ちゃんの愛車チャレンジャーをカスタムするプロジェクト第2弾!!

取材協力★LUXZ（http://luxz.jp）★WORK（https://www.work-wheels.co.jp）
撮影★浅井岳男　原稿★編集部

MIKI's DODGE CHALLENGER CUSTOM PROJECT Produced by LUXZ / WORK

HOT… 立花未来 チャレンジャーカスタム 計画 …TOPICS

迷にその時が来た!! 期待に胸が膨らむばかり

先月からスタートした、立花未来ちゃんの愛車であるダッジ・チャレンジャー・カスタムプロジェクト。その第2弾となる今回はというと、日本一ダッジ・チャレンジャーに熱い漢、島澤代表率いるラグジへ、いよいよ車両を入庫することとなった。前回の打ち合わせの段階でほぼほぼプランを固めることができていたため、あとはいつからスタートするかということだけだったが、三者のスケジュール調整が整った9月中旬から始めようと一致。いざ当日、迷にとこの時が来たかと期待で胸が弾んでいた…のだが、ラグジへ向かう途中で高速道路が大事故によって通行止めとなり、当初の集合時間より大幅に遅れてしまったというオチがあったことは笑い話。

それはさておき、いざラグジへ到着すると装着予定のパーツがスタンバイ済みで、これを見た瞬間道中の疲れも一気に吹き飛んだ。

ラグジのオリジナルブランドであるエッジカスタムズには、アメリカンマッスルテイストを増強した「Mライン」と、パフォーマンスなスタイルの「Rライン」とがあるが、スタンバイしていたのはMライン。最大のポイントとなるオーバーフェンダーを筆頭に、サイドスカート、リアスポイラーが用意され、それ以外にもフロントリップやリアディフューザーの装着も検討されている。さらにフロントフェイスも一新する予定で、グリル&ヘッドライトにもメスを入れることになっている。

ひとまずバーパーを大まかに配置してみたものの、それだけではイメージが湧きにくいということで仮装着してみることに。島澤代表がオーバーフェンダーを装着してサイドスカートをあてがうと、それまではキョトンとしていた未来ちゃんもイメージを掴んだようで、一気に満面の笑み。片側7cm、両側で14cmワイドとなる迫力は相当だったようだ。

そしてホトムスは、ラグジと強力なパートナーシップを組むWORKがサポートしてくれる。しかし、この段階ではどのホイールをセレクトするかの最終判断はされていないが、このタイミングに合わせてWORK名古屋営業所の佐藤さんにサイズ計測をお願いした次第。これまでに数多くのチャレンジャーのメイクを共に仕上げて来ているため、佐藤さんの頭にはこれまでに蓄積したデータが記憶されている。そのため今回のサイズ計測は蓄積データとの整合性を取ると終始し、最終データはWORK広告企画課の吉川さんへと伝えられ、翌日にWORKの工場を見学した後で、最終決断をする。

ボディメイクを担当するのはラグジで、ホイールを担当してくれるのがWORK。車両を持ち込んだ今回のタイミングに合わせて、サイズ計測のためWORK・佐藤さんにお越しいただいた。このオーバーフェンダーを装着した際に組み合せる基本的なサイズはこれまでの蓄積で把握しているが、車両ごとの誤差を確認することで正確なサイズを導き出す。ちなみにリアタイヤは315サイズを装着する。

完成したら11月25日のamZで展示予定

カスタム作業を実行に移すべく
チャレンジャーはラグジの元へ

WORK ホイールの製造現場へ クオリティの高さを肌で体感

取材協力
LUXZ (http://luxz.jp)
WORK
(https://www.work-wheels.co.jp)
撮影■浅井岳男　原稿■編集部

チャレンジャーをラグジに託した翌日。場所を大阪に移して、ホイールのサポートを担当してもらうWORKの工場にお邪魔して、製造現場を見学。

HOT・・・立花未来 チャレンジャーカスタム 計画 ・・・TOPICS

社名及びブランド名が刻まれるセンターキャップはカラーバリエーション豊富に用意されているだけでなく、フラットタイプとハイタイプの2種類から選べる。リムとディスクを繋ぎ合わせるピアスボルトも好みに合わせてカラーを選べるなど、まさにオーダーメイド。

WORKホイールならではの特長は、特殊アルマイト加工による9パターンのリムアレンジ、淡いトーンから重厚感のあるダーク系まで11色から選べるセミオーダーカラー、幅広い車種への装着を可能にした特殊P.C.D.の3つ。これらを軸に様々なリクエストに応えている。

Miki's DODGE CHALLENGER CUSTOM PROJECT Produced by LUXZ / WORK

普段は決して見られないホイール工場内部に潜入

ラグジへチャレンジャーを入庫した足で、その翌日に訪れたのがWORK堺工場。サポートしてくれるWORKのホイールがどの様に生産されているのかを、目で見て肌で感じることは重要なことと捉え、実現した工場見学だ。WORKの工場は大阪と岡山に2拠点ずつあるのだが、今回はリム製作と製品の組立てを担っている堺工場を見学させてもらうことに。ちなみに担当編集が工場見学に訪れたのは、数年前に姉妹誌の取材でトヨタの工場を見学して以来。一方、未来ちゃんはというと「小学生以来かもしれない…」とのこと、いずれにしても久しぶりとなる工場見学にドキドキ。

旦遠、堺工場の工場長である北野さんに案内してもらいながら製造ラインを徘徊すると、まず目に飛び込んできたのが膨大な数の2ピース用のリム。2ピースはリムとディスクを繋いで一体化させることは知っていても、繋ぎ合わせる前の状態をこれほどの数目にすることはまずない。2ピースホイール製造の作業工程としては、まずはエアバルブ用の穴開け→ディスクの加工→リムとディスクの接合→接合部分の強度を高めるための溶接→重量バランス確認→検品→出荷という流れで作業が行なわれている。ちなみに3ピースホイールは、アウターリムとインナーリム、ディスクの3つを固定して組み立てる仕組みだけに、これを堺工場では1本一本手作業にて組み立てを行っており、熟練スタッフたちが丁寧に組み上げていたのが印象的だった。

WORKホイールの製造現場を目に焼き付けたところで、今度は場所を移してさらなるWORKホイールのレクチャーを広告企画課の吉川さんよりしていただく。未来ちゃんのチャレンジャーに装着しようと候補に挙げていたホイールは「マイスターS1R」と「ワークエモーションCR3P」。マイスターS1Rの構造は2ピースで、ワークエモーションCR3Pの構造は3ピース。この違いは先ほどの工場見学の際に確認しているとあって、未来ちゃんも違いをしっかりと理解していた。そしてさらなるWORKホイールの特長はというと、リムアレンジ／セミオーダーカラー／特殊P.C.D.をアレンジできるカスタムオーダープランを設定している点。要するに、いかなる要望にも応えてくれるということだ。これができるのも自社で一貫して製造をしているWORKだからこその強み。

吉川さんからのレクチャーを受けて未来ちゃんが最終的に下した決断はというと、3ピース構造のワークエモーションCR3Pだ。

数多くのブランドを展開しているWORKだけに、すでに候補が絞られていたことはある意味助かったかもしれない。全ブランドが対象だったとしたら決めかねるところだ。そして未来ちゃんが最終的に選んだモデルは「ワークエモーションCR3P」。